

# 直接・間接学習による幼児の行動の相違に 関する研究(3)

—図書及びTV番組の内容分析—

研究第5部 網野武博・望月武子  
石川英夫・丸尾あき子  
萩原英敏・金子保

## I 目的

本研究は、幼児期における学習、とくに間接学習の影響が、その後の行動の変容にどう関連づけられていくかについて、継続して検討を加えてきたものである。

前回の報告(1980)では、間接学習の媒体としての文化的環境のひとつである図書及びTV番組を取り上げ、特に注意に焦点をあてて考察を試みた。

本研究では、前回の調査で示された、幼児に多く読まれている図書及びよく見られているTV番組の内容を分析することによって、幼児を取り巻く文化的環境の一端を明らかにすると共に、これがいわゆる男らしさ・女らしさの形成に及ぼす影響を見ようとするものである。

## II 図書の分析

### 1 方法

#### 1) 材料

前回報告(1980)した「お子さまの読書に関するアンケート」調査の中で、「この3ヶ月間に子どもに与えた本」として親によって報告された図書のうち、特に多く与えられている上位10点の単行本を分析の対象とした。その書名及び構成は第1表の通りである。このうち「日本昔話」は10巻から成っているため、図書の冊数は19冊となる。

#### 2) 整理

##### (i) 内容分析

図書毎に、内容を次の5項目について、それぞれ0, 1, 2の3段階に評定した。

- ①芸術性——美しい、きれいななど、芸術的表現の程度。
- ②情緒——うるおい、思いやり、感性など、情緒豊かな表現の程度。

③知識——生活、科学など、子どもに必要な知識、あるいは教えるべき知識が含まれている程度。

④教訓——人生の教訓、価値観、道徳など、教訓となるものが盛り込まれている程度。

⑤活動・冒険——動きの多さ、活発さ、闘争性、積極性など、活動・冒険の表現がみられる程度。

##### (ii) 行動分析

文は句点で区切り、それを分析の単位とした。文はナレーションと会話とに分け、そのそれぞれを次の分類によって分類した。絵も同様の分類をした。その際の判定の基準は次の通りである。なお、3冊の図書について3名が独立に分類をして一致度を見たが、全員一致率が79.4%に達し、充分信頼できると判断された。

### A 分類

#### ①攻撃的行動

- ・さらに、身体的攻撃と言語的攻撃とに分ける。
- ・直接的攻撃と間接的攻撃(相手の大切なものをこわす、だます、悲しませる、仲間はずれにする、悪口をいう、など)の両者を含む。
- ・攻撃的行動のほかに、被攻撃的行動及び他者に攻撃を求める行動をも含む。
- ・実際に攻撃的行動に至らなくとも、攻撃的意図をもつ行動は含まれる。

#### ②情愛的行動

- ・さらに、身体的情愛と言語的情愛とに分ける。
- ・直接的情愛(だきしめる、ほほえむ、同情する、ねぎらう、助ける、つくす、など)と間接的情愛(相手の大切なものを守る、相手のために犠牲になる、相手のために祈る、など)とを含む。
- ・情愛的行動のほか、被情愛的行動及び他者に情愛を求める行動をも含む。

#### ③感情的表現

第1表 多く与えられた図書名とその構成

順位	図書名	著者	画家	出版社	出版年	頁数	絵の数	文の教	
								ナレーション	会話
1	日本昔話	ひろみプロ制作	岩尾収蔵装丁	高橋書店	昭和52年				
	いっすんぼうし					24	18	51.5	18.5
	さるかに					24	17	50	36
	つるのおんがえし					24	13	44.5	26.5
	かちかちやま					24	19	45	37
	したきりすずめ					24	19	36	32
	うらしまたろう					24	15	41	26
	ももたろう					24	16	43	24
	かぐやひめ					24	19	43	12
	いなばのしろうさぎ					24	14	33	28
	りようかんさま					24	18	42	16
2	ドラえもん	藤子不二雄		小学館	昭和49年	15	114	13	168
3	インソップどうわ	小出正吾	三好碩也	学研	昭和45年	155	101	428	343
4	赤毛のアン	神戸淳吉(訳)	新井五郎	ポプラ社	昭和39年	150	47	542	746
5	ザ・ウルトラマン	円谷プロ		小学館	昭和54年	16	12	23	16
6	もぐらとじどうしゃ	うらだりさこ(訳)	ズデネック・ミレル	福音館	昭和44年	30	56	38	190
7	アンデルセンどうわ	大畑末吉	堀内誠一	学研	昭和45年	155	65	914	348
8	だいちゃんとうみ	太田大八	太田大八	福音館	昭和54年	32	17	37	6
9	こうもり	吉行瑞子	山本忠敬	福音館	昭和54年	28	16	39	0
10	かさじぞう	鶴見正夫	清水耕蔵	講談社	昭和53年	29	17	71	31

上記①と②に該当しない喜怒哀楽の表現。

④客観的叙述

・上記①②③に該当しない一般的客観的叙述。

⑥その他

・攻撃・情愛の両方の要素を含む叙述。

・上記④から④までに分類不能な叙述。

B. 判定の基準

①文章(言葉)として表現されているもの。

②文の前後の関連、もしくは物語の文脈の中で表現されているもの。

③攻撃的行動・情愛的行動の対象関係が明瞭なもの。

④修飾語として使用されている場合は別に数える。

⑤状態を表現するもの(かわいそう、いたいたし、かわいらしい、など)は、「身体的」に分類される。

⑥物語の進展にかかわる表現のほかに、作者としての表現も分析の対象とする。

(3) 攻撃指数と情愛指数

それぞれの図書の攻撃並びに情愛の傾向の程度を表すために、攻撃指数と情愛指数を算出した。それは19冊全体のナレーション、会話別、並びにその合計の攻撃的

行動及び情愛的行動の比率に対する各図書の対応する比率の比をもつてした。

2 結果とその考察

1) 図書の全体的内容分析

(1) 図書の内容

それぞれの図書の内容について3段階評価を行なった結果は第2表の通りで、それを図示したものが第1図である。それぞれの内容項目で、最高の2の評定を受けた図書をあげると、第3表の通りとなる。

以上の結果からすると、親が子どもに多く与える図書は、「情緒豊かなもの」が最も多く、それに次いで「教訓的なもの」、「活動・冒険的なもの」となっている。前回の調査で、本を与えることによって学んでほしいことと本を通じて教えたいことを尋ねた結果は、「情緒が豊かになる」、「情緒を豊かにしたい」がそれぞれ第1位を占め、「道徳・倫理・善悪の判断などを身につける」が前者で第4位、「道徳・倫理・善悪の判断などを身につけさせる」が後者で第2位を占めていたが、親のこれらの希望は、現実的、具体的に子どもに本を与える行動に実現されていると見ることができよう。また、本の人格形成のうえでの影響については、「情緒豊かなもの」が2

番目に強く影響すると親は答えているが、このような親の考えが、図書を選択する場合には当然作用すると考えられる。「活動・冒険的なもの」も比較的多く与えられているが、これは前回の調査で、子どもが好む本の傾向として「冒険的なもの」が第2位（男児では第1位）に

第2表 図書の内容の評定

図 書 名	芸術	情緒	知識	教訓	活動冒険
日本昔話（計）	0.4	1.3	0.4	1.5	0.9
いっすんぼうし	0	0	0	1	2
さるかに	0	1	0	2	1
つるのおんがえし	0	2	1	2	0
かちかちやま	0	1	0	2	1
したきりすずめ	1	2	1	2	1
うらしまたろう	0	1	0	1	2
ももたろう	1	2	1	1	2
かぐやひめ	2	2	1	0	0
いなばのしろうさぎ	0	1	0	2	0
りょうかんさま	0	1	0	2	0
ドラえもん	0	0	0	0	2
インソップどうわ	1	0	1	2	0
赤毛のアン	1	2	0	1	2
ザ・ウルトラマン	0	0	0	0	2
もぐらとじどうしゃ	0	1	2	1	2
アンデルセンどうわ	2	2	0	1	0
だいちゃんとうみ	1	2	1	0	2
こうもり	1	0	2	0	0
かさじぞう	1	2	0	1	0
平均	0.58	1.16	0.53	1.11	1.00

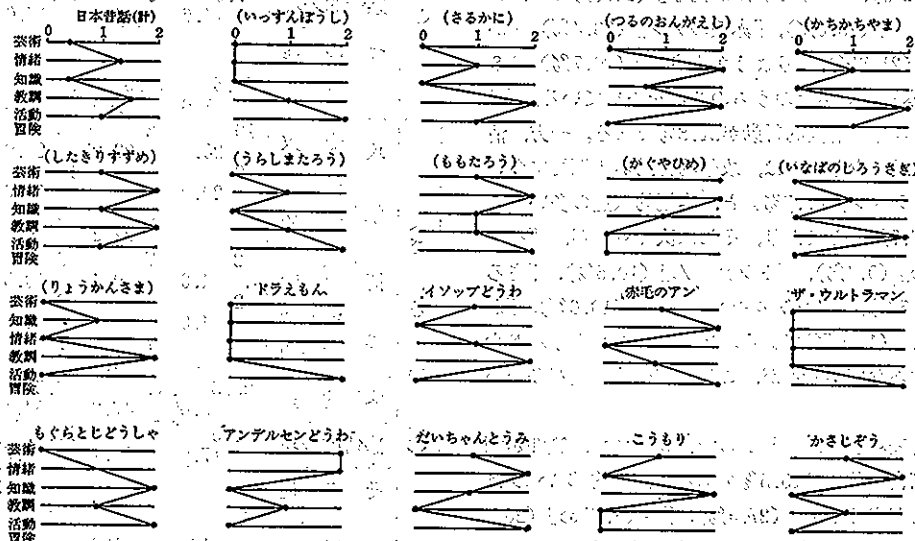
あがっているところからして、子どもの希望によるものであろう。

他方、「知識を与えるもの」及び「芸術性豊かなもの」は少ない。前回の調査で、本を与えることによって学んでほしいことと、本を通じて教えたいことに対して、親は「知識を豊かにする、正確な理解力が身につく」を前者で第2位、後者で第4位にあげており、また、本の人格形成のうえでの影響については、「知識を与えるもの」が最も強く影響すると答えており、さらに、子どもが好む本の傾向として、「夢のあるもの」を飛びぬけて第1位にあげていたが、現実には子どもに与える本にこれらが少ないのは、実際問題として「知識を与える本」「芸術性豊かな本」が少ないことによるものであろう。子どもに豊かな文化的環境を与え、その健やかな成長を図ろうとする、多くの先達たちのたゆみなき努力も、いまだ

第3表 内容の評定段階「2」の図書名

内 容	図 書 名	冊数
芸術性	かぐやひめ、アンデルセンどうわ	2
情 緒	つるのおんがえし、したきりすずめ、ももたろう、かぐやひめ、赤毛のアン、アンデルセンどうわ、だいちゃんとうみ、かさじぞう	8
知 識	もぐらとじどうしゃ、こうもり	2
教 訓	さるかに、つるのおんがえし、かちかちやま、したきりすずめ、いなばのしろうさぎ、インソップどうわ	6
活 動 冒 険	いっすんぼうし、うらしまたろう、ももたろう、ドラえもん、赤毛のアン、ザ・ウルトラマン、もぐらとじどうしゃ、だいちゃんとうみ	8

第1図 図書の内容のプロファイル



しの感なきを得ない。

(2) 図書の行動分析

図書の行動分析の結果は第4表の通りである。文全体の構成比、文のナレーションと会話の構成比、ナレーションの中の構成比、会話の中の構成比を図示したものが第2図と第3図とである。また、絵の構成比を図示したものが第4図である。

まず文全体の構成比では、「客観的叙述」が最も多く、その範囲は16.7%から75.6%に及んでおり、図書全体では55.4%を占めている。これが60%を超えるものが6冊あり、それを多いものからあげれば、「こうもり」(75.6%)、「アンデルセンどうわ」(70.4%)、「だいちゃんとうみ」(69.8%)、「かさじぞう」(66.7%)、「うらしまたろう」(64.9%)、「りようかんさま」(64.7%)である。

「攻撃的行動」は、0から67.9%に及び、図書全体では12.7%である。最高の67.9%というのは「ザ・ウルトラマン」で、これだけがずばぬけて多いが、それに次ぐものは、「かちかちやま」(24.4%)、「イソップどうわ」(21.7%)、「さるかに」(20.9%)、「いっすんぼうし」(18.6%)、「ももたろう」(16.4%)である。他方、攻撃的行動が全く見られないのは、「だいちゃんとうみ」と「かさじぞう」の2つで、5%未満を加えると、「うらしまたろう」(0.7%)、「もぐらとじどうじゃ」(2.0%)、「りようかんさま」(2.6%)、「つるのおんがえし」(3.5%)があげられる。

「情愛的行動」は、7.7%から42.5%に及び、図書全体では16.2%で、攻撃的行動よりいくらか多い。これが20%を超えるものは、「ももたろう」(42.5%)、「したきりすずめ」(41.2%)、「つるのおんがえし」(26.0%)、「だいちゃんとうみ」(25.6%)、「赤毛のアン」(23.4%)、「かぐやひめ」(21.8%)、「りようかんさま」(20.7%)の8冊で、「日本昔話」がそのうちの6冊を占めている。「日本昔話」は全体で情愛的行動が21.8%である。一方、情愛的行動の最も少ないのは、攻撃的行動が圧倒的に多い「ザ・ウルトラマン」(7.7%)と、客観的叙述の多い「こうもり」(7.7%)とであり、それに次ぐものが、「イソップどうわ」(9.4%)、「ドラえもん」(10.5%)、「さるかに」(10.5%)、「アンデルセンどうわ」(10.6%)、「かちかちやま」(11.0%)である。アンデルセンどうわが少ないのは意外な感があるが、これは客観的叙述が多いからである。

「感情的表現」は、0%から27.4%までで、範囲が割合狭く、図書全体では15.5%である。比較的多いのは「もぐらとじどうじゃ」(27.4%)、「かぐやひめ」(26.4%)で、少ないのは「こうもり」(0%)、「だいちゃん

とうみ」(4.7%)、「ザ・ウルトラマン」(7.7%)、「ももたろう」(8.2%)である。

第4表 行動分析

書名	文の数			絵の数		
	ナレーション	会話	計			
日本昔話	攻撃	総数	46.5 %	44.5 %	91 %	44.5 %
		身体的	10.9	17.3	13.3	
		言語的	46.5	10.9	46.5	
	情愛	総数	54.5	94.5	149	26.5
		身体的	12.7	36.8	21.8	
		言語的	54.5	12.7	54.5	
	話(計)	客観的叙述	252.7	94	346.7	54
		感情的表現	59.0	36.6	50.6	32.1
		その他	74.3	24	98.3	43
		計	17.4	9.3	14.4	25.6
いっすんぼうし	攻撃	総数	8	5	13	4
		身体的	15.5	27.0	18.6	
		言語的	8	5	11.4	
	情愛	総数	5.5	3	8.5	1
		身体的	10.7	16.2	12.1	
		言語的	5.5	3	7.9	
	話(計)	客観的叙述	30.5	7.5	38	10
		感情的表現	59.2	40.5	54.3	55.6
		その他	7.5	3	10.5	3
		計	14.6	16.2	15.0	16.7
さるかに	攻撃	総数	10	8	18	8
		身体的	20.0	22.2	20.9	
		言語的	10	8	11.6	
	情愛	総数	2	7	9	2.3
		身体的	4.0	19.4	10.5	
		言語的	2	7	7	
	話(計)	客観的叙述	29.5	17	46.5	8
		感情的表現	59.0	47.2	54.1	47.1
		その他	8.5	4	12.5	1
		計	17.0	11.1	14.5	5.9
こ	攻撃	総数	10	8	18	8
		身体的	20.0	22.2	20.9	
		言語的	10	8	11.6	
	情愛	総数	2	7	9	2.3
		身体的	4.0	19.4	10.5	
		言語的	2	7	7	
	話(計)	客観的叙述	29.5	17	46.5	8
		感情的表現	59.0	47.2	54.1	47.1
		その他	8.5	4	12.5	1
		計	17.0	11.1	14.5	5.9

次に、ナレーションと会話の構成比では、「こうもり」(100%)や「だいちゃんとうみ」(86.0%)、「かぐやひめ」(78.2%)のように、ナレーションが大部分を占めるものと、逆に「ドラえもん」(92.8%)、「もぐらとじどうしゃ」(83.3%)のように、会話が大部分を占めるものもあるが、全体としては、いくらかナレーションが

多い程度である。  
次にナレーションの中と会話の中の構成比を比較すると、ナレーションは会話に比べると「客観的叙述」が多く、「攻撃的行動」、「情愛的行動」が少なくなっている。特に「情愛的行動」は会話のほとんどない。  
次に文の構成比と絵の構成比を比較すると、全体的に

つるのおんがえし	攻撃	総数	1.5	1	2.5	
		身体的	3.3	3.8	3.5	
		言語的	1.5	1	1	7.7
	情愛	総数	7.5	11	18.5	
		身体的	16.9	41.5	26.0	
		言語的	7.5	11	7.5	7.7
	客観的叙述	28.2	10	38.2	4	
	感情的表現	63.4	37.7	53.8	30.8	
	その他	7.3	4.5	12	7	
	計	44.5	26.5	71.2	13	
かちかちやま	攻撃	総数	10	10	20	
		身体的	22.2	27.0	24.4	
		言語的	10	10	12.2	63.2
	情愛	総数	2	7	9	
		身体的	4.4	18.9	11.0	
		言語的	2	7	2.4	
	客観的叙述	26	17	43	5	
	感情的表現	57.8	45.9	52.4	26.3	
	その他	7	3	10	2	
	計	45	37	82	19	
したきりすずめ	攻撃	総数	2	7.5	9.5	
		身体的	5.6	23.4	14.0	
		言語的	2	7.5	2.9	5.5
	情愛	総数	8	20	28	
		身体的	22.2	62.5	41.2	
		言語的	8	20	11.8	5.5
	客観的叙述	19	3	22	4	
	感情的表現	52.8	9.4	32.4	21.1	
	その他	7	1.5	8.5	4	
	計	36	32	68	19	

うらしまたろう	攻撃	総数	0.5		0.5	
		身体的	1.2		0.7	
		言語的	0.5		0.7	1
	情愛	総数	2.5	11	13.5	
		身体的	6.1	42.3	20.1	
		言語的	2.5	11	2.5	3
	客観的叙述	30.5	13	43.5	5	
	感情的表現	74.4	50.0	64.9	33.3	
	その他	7.5	2	9.5	6	
	計	41	26	67	15	
もまたろう	攻撃	総数	5	6	11	
		身体的	11.9	24.0	16.4	
		言語的	5	6	7.5	5
	情愛	総数	11.5	17	28.5	
		身体的	27.4	68.0	42.5	
		言語的	11.5	17	11.5	6
	客観的叙述	20	2	22	2	
	感情的表現	47.6	8.0	32.8	12.5	
	その他	5.5		5.5	3	
	計	42	25	67	16	
かぐやひめ	攻撃	総数	5.5		5.5	
		身体的	12.8		10.0	
		言語的	5.5		5.5	4
	情愛	総数	5.5	6.5	12	
		身体的	12.8	54.2	21.8	
		言語的	5.5	6.5	5.5	1
	客観的叙述	20.5	2.5	23	3	
	感情的表現	47.7	20.8	41.8	15.8	
	その他	11.5	3	14.5	11	
	計	43	12	55	19	

は「情愛的行動」の割合は両者は同程度であるが、「客観的叙述」は絵より文の方がやや多く、「攻撃的行動」と「感情的表現」は文より絵の方がいくらか多い。個々の図畫について文と絵の差の大きいものをあげると、絵よりも文の方が多いものは、「情愛的行動」に関しては「つるのおんがえし」と「かぐやひめ」、客観的

叙述」に関しては「かさじぞう」であり、逆に文より絵の方が多いものは、「攻撃的行動」に関しては「じたりすずめ」、「情愛的行動」に関しては「かさじぞう」、「客観的叙述」に関しては「もぐらとじぞうじゃ」、「感情的表現」に関しては「うらしまたろう」と「ドラえもん」と「かさじぞう」である。

(い) ねばのしろうさぎ	攻撃	総数	3	9.1	6.7	21.4	9	14.8	3	21.4
		身体的	3	9.1	6.7	21.4	3	4.9	3	21.4
		言語的			6	21.4	6	9.8		
	情愛	総数	3	9.1	7.3	25.0	10	16.4	2	14.3
		身体的	3	9.1	7.3	25.0	3	4.9	2	14.3
		言語的			7	25.0	7	11.5		
	客観的叙述	19.5	59.1	14.3	50.0	33.5	54.9	6	42.8	
感情的表現	7.5	22.7	1	3.6	8.5	13.9	3	21.4		
その他										
計	33	100	28	100	61	100	14	100		
(り) ようかんさま	攻撃	総数	0.5	1.2	1	6.3	1.5	2.6	1	5.6
		身体的	0.5	1.2	1	6.3	0.5	0.9	1	5.6
		言語的			1	6.3	1	1.7		
	情愛	総数	7	16.7	5	31.3	12	20.7	7	38.9
		身体的	7	16.7	5	31.3	7	12.1	7	38.9
		言語的			5	31.3	5	8.6		
	客観的叙述	29.5	70.2	8	50.0	37.5	64.7	7	38.9	
感情的表現	5	11.9	2	12.5	7	12.1	3	16.7		
その他										
計	42	100	16	100	58	100	18	100		
ドラえもん	攻撃	総数	24	14.3	24	14.3	24	13.3	8	7.0
		身体的	24	14.3	24	14.3	24	13.3	8	7.0
		言語的			24	14.3	24	13.3		
	情愛	総数	19	11.3	19	11.3	19	10.5	9	7.9
		身体的	19	11.3	19	11.3	19	10.5	9	7.9
		言語的			19	11.3	19	10.5		
	客観的叙述	8	61.5	99	58.9	107	59.1	57	50.0	
感情的表現	5	11.9	20	11.9	20	11.0	39	34.2		
その他	5	38.5	6	3.6	11	6.1	1	0.9		
計	13	100	168	100	181	100	114	100		

インソップどうわ	攻撃	総数	80	18.7	87	25.4	167	21.7		
		身体的	78	18.2	86	25.4	78	10.1	32	31.7
		言語的	2	0.5	87	25.4	89	11.5		
	情愛	総数	17.5	4.1	55	16.0	72.5	9.4		
		身体的	17.5	4.1	55	16.0	17.5	2.3	7	6.9
		言語的			55	16.0	55	7.1		
	客観的叙述	269.5	63.0	173	50.4	442.5	57.4	48	47.5	
感情的表現	61	14.2	26	7.6	87	11.3	14	13.9		
その他			2	0.6	2	0.3				
計	428	100	343	100	771	100	101	100		
赤毛のアン	攻撃	総数	38	7.0	129	17.3	167	13.0	5	10.6
		身体的	38	7.0	129	17.3	38	3.0	5	10.6
		言語的			129	17.3	129	10.0		
	情愛	総数	60	11.1	241	32.3	301	23.4	10	21.3
		身体的	60	11.1	241	32.3	60	4.7	10	21.3
		言語的			241	32.3	241	18.7		
	客観的叙述	281	51.8	246	33.0	527	40.9	10	21.3	
感情的表現	163	30.1	130	17.4	293	22.7	22	46.8		
その他										
計	542	100	746	100	1288	100	47	100		
ザウルトラマン	攻撃	総数	14.5	63.0	12	75.0	265	67.9	9	75.0
		身体的	14.5	63.0	12	75.0	14.5	37.2	9	75.0
		言語的			12	75.0	12	30.7		
	情愛	総数	1	4.3	2	12.5	3	7.7		
		身体的	1	4.3	2	12.5	1	2.6		
		言語的			2	12.5	2	5.1		
	客観的叙述	4.5	19.6	2	12.5	6.5	16.7	3	25.0	
感情的表現	3	13.0			3	7.7				
その他										
計	23	100	16	100	39	100	12	100		

(3) 攻撃指数と情愛指数

前記の方法によって算出した各図書の攻撃指数及び情愛指数は第5表の通りで、文全体のそれを図示したものが第5図である。

それによると、攻撃指数の著しく高いものは「ザ・ウルトラマン」(535)であり、以下「かちかちやま」(192),

「イソップどうわ」(171), 「さるかに」(165), 「いっすんぼうし」(146)の順となり、他方、低いものは「だいちゃんとうみ」(0), 「かざじぞう」(0), 「うらしまたろう」(6), 「もぐらとじどうしゃ」(16), 「りようかんさま」(20)である。

情愛指数の最も高いものは「ももたろう」(262)と「し

もぐらとじどうしゃ	攻撃	総数	1.5	3	4.5	
		身体的	3.9	1.6	2.0	1
		言語的	1.5	3	0.7	1.8
	情愛	総数	39.5	20.8	17.3	5
		身体的				8.9
		言語的	39.5	20.8	17.3	
	客観的叙述	35.5	86	121.5	35	
93.4		45.3	53.3	62.5		
1		61.5	62.5	15		
2.6		32.4	27.4	26.8		
その他						
計	38	190	228	56		
アンデルセンどうわ	攻撃	総数	51.3	49.5	100.8	
		身体的	5.6	14.2	8.0	11
		言語的	49.3	49.3	3.9	16.9
	情愛	総数	71.8	62.5	134.3	
		身体的	7.9	18.0	10.6	13
		言語的	62.8	6.9	5.0	20.0
	客観的叙述	69.4	195	889	31	
75.9		56.0	70.4	47.7		
96.8		41	137.8	10		
10.6		11.8	10.9	15.4		
その他						
計	913.9	348	1261.9	65		
だいちゃんとうみ	攻撃	総数				
		身体的				
		言語的				
	情愛	総数	6	5	11	
		身体的	16.2	33.3	25.6	9
		言語的	5	5	11.6	52.9
	客観的叙述	30		30	7	
81.1			69.8	41.2		
1		1	2	1		
2.7		16.7	4.7	5.9		
その他						
計	37	6	43	17		

こころ	攻撃	総数	6.5		6.5	
		身体的	16.7		16.7	2
		言語的	6.5		16.7	12.5
	情愛	総数	3		3	
		身体的	7.7		7.7	2
		言語的	3		7.7	12.5
	客観的叙述	29.5		29.5	12	
75.6			75.6	75.0		
その他						
計	39		39	16		
かさじぞう	攻撃	総数				
		身体的				
		言語的				
	情愛	総数	6	13	19	
		身体的	8.4	41.9	18.6	8
		言語的	5	7.0	5	47.1
	客観的叙述	56	12	68	4	
78.9		38.7	66.7	23.5		
9		6	15	5		
12.7		19.4	14.7	29.4		
その他						
計	71	31	102	17		
総計	攻撃	総数	236.3	351	587.3	
		身体的	9.3	16.6	12.7	112.5
		言語的	232.3	351	355	18.4
	情愛	総数	218.8	532.5	751.3	
		身体的	8.6	25.3	16.2	89.5
		言語的	207.8	532.5	543.5	14.6
	客観的叙述	1660.7	907	2567.7	261	
65.6		43.0	55.4	42.6		
409.1		309.5	718.6	149		
16.2		14.7	15.5	24.3		
その他	5	8	13	1		
計	2530	2108	4638	613		

第2図 文の構成比(1)

文全体の構成比				ナレーションと会話の構成比		
攻撃13.3 身68	情愛21.8 身 言語 6.580 13.8	客観	感情	日本語(計)	ナレーション 62.5	会話 37.5
攻撃18.6 身11.4	情12.1 身 言語 7.1 7.943	客観	感情	(いっすんぼうし)	ナレーション 73.6	会話 26.4
攻撃20.9 身11.6	情10.5 身 言語 9.3 8.1	客観	感情	(さるかに)	ナレーション 58.1	会話 41.9
攻 身105 2.1	情愛26.0 身 言語 105 154 2.1 書1.4	客観	感情	(つるのおんがえし)	ナレーション 62.5	会話 37.2
攻撃24.4 身12.2	情11.0 身 言語 24 8.5	客観	感情	(かちかちやま)	ナレーション 54.9	会話 45.1
攻 身69	情愛41.2 身 言語 11.0 29.4	客観	感情	(したきりすずめ)	ナレーション 52.9	会話 47.1
攻 身107	情愛20.1 身 言語 3.7 16.4	客観	感情	(うらしまたろう)	ナレーション 61.2	会話 38.8
攻 身7.5	情愛42.5 身 言語 9.0 17.2	客観	感情	(ももたろう)	ナレーション 62.7	会話 37.3
攻 身5.5	情愛21.8 身 言語 5.5 10.0 11.8	客観	感情	(かぐやひめ)	ナレーション 78.2	会話 21.8
攻 身4.9	情愛16.4 身 言語 9.8 4.9 11.5	客観	感情	(いなばのしろうき)	ナレーション 54.1	会話 45.9
攻 身2.6	情愛20.7 身 言語 11 12.1 8.6 書1.7	客観	感情	(りょうかんさま)	ナレーション 72.4	会話 27.6
攻撃 身13.3	情愛 身 言語 13.3 10.5	客観	感情	ドラえもん	ナ 7.2	会話 92.8
攻撃 身10.1	情愛9.4 身 言語 11.5 7.1 書2.3	客観	感情	イソップどうわ	ナレーション 55.5	会話 44.5
攻撃 身3.0	情愛23.4 身 言語 10.0 4.7 18.7	客観	感情	赤毛のアン	ナレーション 42.1	会話 57.9
攻撃 身	情愛67.9 身 言語 37.2 30.7 書26.51	客観	感情	ザ・ウルトラマン	ナレーション 59.0	会話 41.0
情愛17.3 身2.0	言語17.3	客観	感情	もぐらとじどうしゃ	ナ 16.7	会話 83.3
攻 身39.4	情愛10.6 身 言語 15.0 6.7	客観	感情	アンデルセンどうわ	ナレーション 72.4	会話 27.6
情愛25.6 身11.6	言語14.0	客観	感情	だいちゃんとうみ	ナレーション 86.0	会話 14.0
攻撃 身16.7	情 身 言語 16.7 7.7	客観	感情	こうもり	ナレーション 100	
情愛18.6 身4.9	言語13.7	客観	感情	かさじぞう	ナレーション 69.6	会話 30.4
攻撃 身5.5	情愛16.2 身 言語 7.7 11.7	客観	感情	総計	ナレーション 54.5	会話 45.5



網野他：直接・間接学習による幼児の行動の相違に関する研究（3）

第3図 文の構成比(2)

ナレーションの構成比

攻撃	情愛	客観	親	感情
10.9	12.7	59.0		17.4
15.5	10.7	59.2		14.6
20.0	4.0	59.0		17.0
3.3	16.9	63.4		16.4
22.2	4.4	57.8		15.6
5.6	22.2	52.8		19.4
6.1		74.4		18.3
11.9	27.4	47.6		13.1
12.8	12.8	47.7		26.7
9.1	9.1	59.1		22.7
16.7		70.2		11.9
		61.5	38.5	
18.7	4.1	63.0		14.2
7.0	11.1	51.8		30.1
63.0		4.3	19.6	13.0
3.9		93.4		2.6
5.6	7.9	75.9		10.6
16.2		81.1		2.7
16.7	7.7	75.6		
8.4		78.9		12.7
9.3	8.6	65.6		16.2

日本語(計)  
 (いっすんぼうし)  
 (さるかに)  
 (つるのおんがえし)  
 (かちかちやま)  
 (したきりすずめ)  
 (うらしまたろう)  
 (ももたろう)  
 (かぐやひめ)  
 (いなばのしろうさぎ)  
 (りょうかんさま)  
 ドラえもん  
 イソップどうわ  
 赤毛のアム  
 ザ・ウルトラマン  
 もぐらとじどうしゃ  
 アンデルセンどうわ  
 だいちゃんとうみ  
 こうもり  
 かさじぞう  
 総計

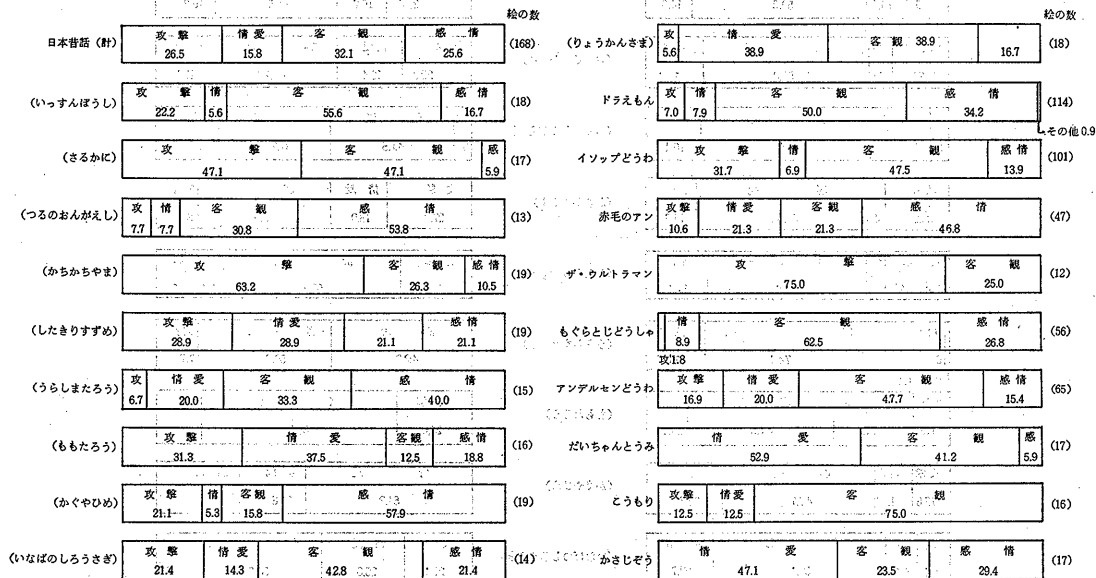
会話の構成

攻撃	情愛	客観	親	感情
17.3	36.8	36.6		9.3
27.0	16.2	40.5		16.2
22.2	19.4	47.2		11.1
3.8	41.5	37.7		17.0
27.0	18.9	45.9		8.1
23.4		62.5	9.4	4.7
42.3		50.0		7.7
24.0		68.0		8.0
54.2		20.8		25.0
21.4	25.0	50.0		3.6
6.3	31.3	50.0		12.5
14.3	11.3	58.9		11.9
25.4	16.0	50.4		7.6
17.3	32.3	33.0		17.4
75.0		12.5	12.5	
20.8		45.3		32.4
14.2	18.0	56.0		11.8
		83.3		16.7
41.9		38.7		19.4
16.6	25.3	43.0		14.7

たきりすずめ」(254)であり、「つるのおんがえし」(160), 「だいちゃんとうみ」(158), 「赤毛のアン」(144)がこれに次ぎ、他方低いものは「ザ・ウルトラマン」(48),

「こうもり」(48), 「イソップどうわ」(58), 「さるかに」(65), 「ドラえもん」(65), 「アンデルセンどうわ」(65), 「かちかちやま」(68)などである。

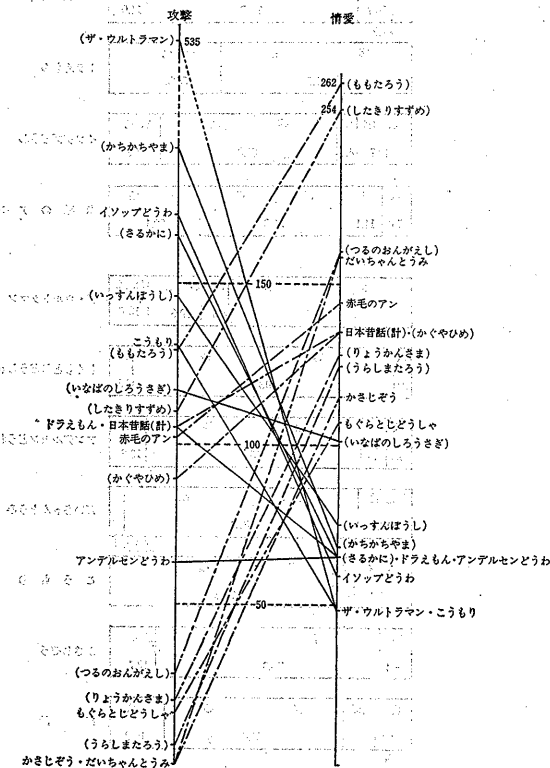
第4図 絵の構成比



第5表 攻撃指数及び情愛指数

図書名	文全体		ナレーション		会話	
	攻撃	情愛	攻撃	情愛	攻撃	情愛
日本昔話(計)	105	135	117	148	104	145
(いっすんぼうし)	146	75	167	124	166	64
(さるかに)	165	65	215	47	134	77
(つるのおんがえし)	28	160	35	197	23	164
(かちかちやま)	192	68	239	51	163	75
(したきりすずめ)	110	254	60	258	141	247
(うらしまたろう)	6	124	13	71	—	167
(ももたろう)	129	262	128	319	145	269
(かぐやひめ)	86	135	151	149	—	214
(いなばのしろうさぎ)	117	101	98	106	129	99
(りょうかんさま)	20	128	13	194	38	124
ドラえもん	105	65	—	—	86	45
イソップどうわ	171	58	201	48	153	63
赤毛のアン	102	144	75	129	104	128
ザ・ウルトラマン	535	48	677	50	451	49
もぐらとじどうしゃ	16	107	42	—	10	82
アンデルセンどうわ	63	65	58	91	88	72
だいちゃんとうみ	—	158	—	188	—	329
こうもり	131	48	180	90	—	—
かさじぞう	—	115	—	98	—	166

第5図 攻撃指数と情愛指数の変化



今、便宜上、攻撃指数、情愛指数を75~124を中心として、5きざみで5段階に分け、高い方から5から1の段階区分をし、攻撃指数と情愛指数の組合せをみると第6表のようになる。これによって図書の性格を次のように分類することができる。

図書の性格分類

- A 攻撃指数、情愛指数共に高いもの……「ももたろう」
- B 攻撃指数が高く、情愛指数が低いもの……「かちかちやま」、「ザ・ウルトラマン」、「さるかに」、「イソップどうわ」、「こうもり」の5冊。
- C 攻撃指数が低く、情愛指数が高いもの……「りようかんさま」、「だいちゃんとうみ」、「つるのおんがえし」の3冊。
- D 攻撃指数、情愛指数共に低いもの……「アンデルセンどうわ」
- E 攻撃指数が高く、情愛指数が普通のもの……「いっすんぼうし」
- F 攻撃指数が低く、情愛指数が普通のもの……「うらしまたろう」、「もぐらとじどうしゃ」、「かさじぞう」の3冊。

G 攻撃指数が普通で、情愛指数の高いもの……「したきりすずめ」、「日本昔話」（計）、「かぐやひめ」、「赤毛のアン」の3冊。

H 攻撃指数が普通で、情愛指数が低いもの……「ドラえもん」

I 攻撃指数、情愛指数共に普通のもの……「いなばのしろうさぎ」

2) 性 差  
子どもに多く与えられた図書を、男児に多く与えられた図書、女児に多く与えられた図書、及び男女児に同程度に与えられた図書に分けると、「ドラえもん」と「ザ・ウルトラマン」は男児に、「日本昔話」と「赤毛のアン」は女児に多く、その他は男女児に同程度である。この3群について、図書の内容項目の段階の平均値を比較すると第7表の通りで、男児の2冊はいずれも「活動・冒険」だけが2で、他は全部0という共通の内容をもつことが目立ち、女児の2冊は「情緒」が比較的高く、「知識」が少ないように思われ、かなり明瞭な性差が認められる。

次に3群の行動分析の結果は第8表の通りで、文の構

第6表 攻撃指数・情愛指数段階別図書分類

情愛 攻撃	5	4	3	2	1
5					(かちかちやま) ザ・ウルトラマン
4	(ももたろう)		(いっすんぼうし)		(さるかに) イソップどうわ こうもり
3	(したきりすずめ)	日本昔話(計) かぐやひめ 赤毛のアン	(いなばのしろうさぎ)		ドラえもん
2		(つるのおんがえし)			アンデルセンどうわ
1		(りようかんさま) だいちゃんとうみ	(うらしまたろう) もぐらとじどうしゃ かさじぞう		

第7表 性と図書の内容の評定

	芸術性	情 緒	知 識	教 訓	活動・冒険
男児に多く与えられた図書	0	0	0	0	2
女児に多く与えられた図書	0.7	1.7	0.2	1.3	1.5
男女児同程度に与えられた図書	1.0	1.2	1.0	0.8	0.7
与えられた図書全体	0.58	1.16	0.53	1.11	1.00

成比並びにナレーションと会話の比率を図示したものが第6図である。これによると、男児に多く与えられた図書は「攻撃的行動」が多く、女兒に多く与えられた図書は「情愛的行動」と「感情的表現」が多いことが、きわめて明瞭に示されている。ナレーションと会話の比率では、男児の場合は会話が長く、女兒の場合は大体同率となっている。さらに、3群の攻撃指数と情愛指数を比較した第9表でも、男児に多く与えられた図書は攻撃指数が情愛指数に比べて非常に高く、特にナレーションにおいてその傾向は顕著に認められる。一方、女兒に多く与えられた図書は攻撃指数より情愛指数が高く、この場合はナレーションも会話も変わらない。前述の図書の性格分類でいうと、男児に多く与えられた図書は分類Bであり、女兒に多く与えられた図書は分類Gであり、男女児に同程度に与えられた図書は分類Hということになる。

以上の結果から、結論的に、男児に与えられた図書は攻撃的傾向が強く、女兒に与えられた図書は情愛的傾向

第8表 性の行動分析

	攻	情	愛	文 の 数			絵の数		
				ナレシ ョン	会 話	計			
男児に多く与えられた図書	総 数	14.5 %	36 %	50.5 %	23.0 %	17 %	13.5 %		
	身体的	40.3	19.6	14.5	6.6				
	言語的	40.3	36	36	16.4				
	総 数	1	21	22	10.0			9	7.1
	身体的	1	11.4	1	0.5				
	言語的	2.8	21	21	9.5				
	客観的叙述	12.5	101	113.5	60			39	36.0
	感情的表現	34.7	54.9	51.6	47.6				
	その他	3	20	23	10.5				
	計	5	6	11	1			0.8	0.8
	13.9	3.3	5.0	0.8	100	100	100	100	

第6図 性と内容分析の構成比

文の構成比				ナレーションと会話の構成比			
攻撃	情愛	客観	感情	ナ	会	話	他
23.0	10.0	51.6	10.5	16.4	88.6		
13.1	22.8	44.3	19.8	49.2	50.8		
11.4	11.4	64.6	12.4	62.3	37.7		
12.7	16.2	55.4	15.5	54.5	45.5		

が強いということが出来る。予想されたことがここに実証されたわけである。

攻	情	愛	客観的叙述				感情的表現				その他			
			ナレシ ョン	会 話	計	比	ナレシ ョン	会 話	計	比	ナレシ ョン	会 話	計	比
84.5	8.7	173.5	258	13.1	49.5	23.0	114.5	11.8	335.5	450.0	22.8	36.5	17.0	
84.5	8.7	173.5	173.5	4.3	23.0	8.8	114.5	11.8	335.5	335.5	5.8	17.0	17.0	
533.7	55.0	340	33.9	873.7	44.3	64	237.3	24.5	154	391.3	19.8	65	30.2	
970	100	1003	100	1973	100	215	100	100	100	100	100	100	100	
137.3	9.0	141.5	15.4	278.8	11.4	46	16.9	103.3	6.8	176	19.1	279.3	11.4	
133.3	8.7	141.5	15.4	133.3	5.5	16.2	4	0.3	141.5	145.5	6.0	187	7.6	
103.3	6.8	176	19.1	103.3	3.8	16.2	11	0.7	176	187	7.6	1114.5	50.6	
92.3	6.1	176	19.1	92.3	3.8	16.2	11	0.7	176	187	7.6	1114.5	50.6	
1114.5	73.1	466	50.6	1580.5	64.6	137	50.4	168.8	11.1	135.5	14.7	304.3	12.4	
1524	100	921	100	2445	100	272	100	2	0.2	2	0.1	2	0.1	

第9表 性と攻撃指数及び情愛指数

群	全 体		ナレシ ョン		会 話	
	攻撃	情愛	攻撃	情愛	攻撃	情愛
男児に与えられた本	181	62	433	33	118	45
女兒に与えられた本	103	141	94	137	104	132
男女同程度に与えられた本	90	70	97	79	93	75

3) 図書の選択者と図書の性格

図書を選ぶ際、それを選択する人によって、その選択された図書の性格に一定の傾向が認められるであろうか。

各図書の性格とその図書の選択者は第10表の通りである。攻撃指数が高く情愛指数の低い「ザ・ウルトラマン」、「イソップどうわ」、「こうもり」の3冊についてみると、「ザ・ウルトラマン」は男児自身(87.0%)が選択することが圧倒的に多いが、「イソップどうわ」は母親(39.3%)と父親(14.3%)が選択することが多い。「こうもり」は攻撃指数も高いが、科学的な内容の図書であるところからか、その大部分が幼稚園であるその他(82.4%)が圧倒的に多くなっている。次に、情愛指数の高い「だいちゃんとうみ」、「赤毛のアン」、「日本昔話」の3冊については、「だいちゃんとうみ」はその他(77.8%)が圧倒的に多く、「赤毛のアン」は女児自身(48.1%)が多く、「日本昔話」は母親(40.9%)と父親

(18.2%)が多い。その他では「ドラえもん」は男児自身(54.8%)が多く、「かさじぞう」と「もぐらとじどうしゃ」は共にその他(75.0%・57.1%)が多く、「アンデルセンどうわ」は母親(55.6%)が多い。

以上のように、図書の性格によっては選択者に一定の傾向は認め難い。しかし、男児に多く与えられる「ザ・ウルトラマン」と「ドラえもん」は男児自身によって選択される傾向が認められた。又、「イソップどうわ」、「日本昔話」、「アンデルセンどうわ」というような古くから人口に膾炙した童話は、親によって選択されることが多い。又、幼稚園によって選択されることの多かった図書は、「こうもり」を除いて、攻撃指数の低い図書といえることができる。

4) 図書の性格と図書を選ぶ時に重きをおく本の種類の関連

親が図書を選択する時に重点をおくところと、実際に子どもに与える図書の性格とが一致しているであ

第10表 図書の性格と選択者

図書名	男児		女児		父		母		その他		計	攻撃指数	情愛指数	同段階
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
攻撃的	ザ・ウルトラマン	20	87.0	0		1		2		0	23	535-48	5-2	
	イソップどうわ	1		5	48.1	4	14.3	11	39.3	7	28	171-58	4-2	
	こうもり	0		0		0		3		14	17	131-48	4-2	
情愛的	だいちゃんとうみ	0		0		1		3		14	18	0-158	1-4	
	赤毛のアン	1		13	48.1	3		9		1	27	102-144	3-4	
	日本昔話	3		5		8	18.2	18	40.9	10	44	105-135	3-4	
その他	ドラえもん	23	54.8	12		1		3		3	42	105-65	3-2	
	かさじぞう	0		0		0		4		12	16	0-115	1-3	
	もぐらとじどうしゃ	0		2		1		6		12	21	16-107	1-3	
	アンデルセンどうわ	0		0		2	11.1	10	55.6	6	18	63-65	2-2	

第11表 図書を選ぶ時に重きをおく本の種類との関連

図書名	芸術性		情緒		知識		教訓的		活動・冒険		その他		無記		計
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
攻撃的	ザ・ウルトラマン	1		10	21.7	12	26.1	1		10	25.6	5		7	46
	イソップどうわ	2		19	33.9	15	26.8	1		6		2		11	56
	こうもり	1		10	29.4	12	35.3	3		3		2		3	34
情愛的	だいちゃんとうみ	3		12	33.3	11	32.4	0		4		0		6	36
	赤毛のアン	6		22	40.7	11	20.4	3		7		0		5	54
	日本昔話	2		28	31.8	24	27.3	11	12.5	15	18.5	1		7	88
その他	ドラえもん	2		30	35.7	18	21.4	2		15	17.9	6		11	84
	かさじぞう	3		14	43.8	9	28.1	1		2		2		1	32
	もぐらとじどうしゃ	5		19	45.2	8	19.0	0		7		2		1	42
	アンデルセンどうわ	0		13	36.1	9	25.0	2		3		0		9	36

ろうか。

この両者の関連をみたのが第11表であるが、ほとんどの図書は選ぶ時「情緒豊かなもの」と「知識を与えるもの」に重点がおかれている。

攻導指数の高い3冊についてみると、その著しく高い「ザ・ウルトラマン」を挙げた親は、「知識を与えるもの」(26.1%)と並んで「活動的、冒険的なもの」(25.6%)に重点をおいているものが多いが、比較的攻撃指数の高い「イソップどうわ」を挙げた親は、「活動的、冒険的なもの」に重きをおくものは少なく、むしろ「情緒豊かなもの」(33.9%)に重点をおくものが多い。攻撃指数も高いが科学的傾向の強い「こうもり」を挙げた親は、他のいずれの図書を挙げた親にも増して、「知識」(35.3%)は重きをおくものが多い。他方、情愛指数の高い3冊については、「赤毛のアン」を挙げた親は、「情緒豊かなもの」(40.7%)に重点をおくものが非常に多いが、同じく「だいちゃんとうみ」を挙げた親は、「情緒」(33.3%)と「知識」(32.4%)に重点をおくものが同程度となっている。「日本昔話」はいろいろと違った内容が含まれているので、これを挙げた親は「情緒」(31.8%)、「知識」(27.3%)のほかにも、「活動的、冒険的なもの」(18.5%)、「教訓的なもの」(12.5%)に重点をおくものなど、さまざまである。

以上、それぞれの図書を挙げた親の図書を選択する際に重点をおくところと挙げられた図書の性格とは、一致する場合もあれば、一致しない場合もあり、本資料だけでは何ともいえない。もちろん、親は子どもにある特定の種類の図書だけを与えるわけではなく、むしろいろいろと異なる種類の図書を与えているわけであろうから、このような結果になるのは当然とも考えられる。

5) 図書の性格と人格形成への影響度についての親の見解との関連

人格形成の上で本が影響する程度についての親の見解は実際に子どもに与える図書に生かされているであろうか。

この点の関連をみたのが第12表である。この表は、影響度についての親の評定、すなわち「非常に強く影響する」、「かなり影響する」、「どちらともいえない」、「あまり影響しない」、「全然影響しない」に、それぞれ+2、+1、0、-1、-2の点数を与え、その合計を平均した数学である。

これによると、親は一般的には「情緒豊かなもの」と「知識を与えるもの」の影響を重視しているが、攻撃指数の高い3冊を与えた親は、「活動的、冒険なもの」の影響を否定しているわけではない、その影響を若干認め

ながらお与えているのである。一方、情愛指数の高い3冊を与えた親は、他と同様「情緒豊かなもの」の影響を重視するが、「芸術性豊かなもの」の影響を軽視する傾向が見られる。この結果からは理解に苦しむところである。

第12表 人格形成への影響度との関連

	図 書 名	芸術性	情緒	知識	教訓的	活冒險
攻撃的	ザ・ウルトラマン	0.38	0.86	0.52	0.09	0.76
	イソップどうわ	0.45	1.10	1.20	0.50	0.55
	こうもり	1.06	1.12	1.12	0.88	0.47
情愛的	だいちゃんとうみ	0.33	0.87	1.00	0.73	0.20
	赤毛のアン	0.26	1.04	1.30	0.74	0.41
	日本昔話	0.25	1.10	1.07	0.75	0.50
その他	ドラえもん	0.51	1.05	0.97	0.65	0.71
	かさじぞう	0.47	1.40	1.07	0.80	0.80
	もぐらとじどうしゃ	0.57	1.05	1.19	0.57	1.05
	アンデルセンどうわ	0.07	1.07	0.93	0.33	0.73

6) 図書の性格と子どもの育て方

子どもを育てるにあたって、男児は男の子らしく、女児は女の子らしく育てたいと思う者が圧倒的多数を占めることは前研究で示したが、そのような親の育て方の方針によって子どもに与える図書の性格が異なるであろうか。

与える図書の性格と子どもの育て方との関係は第13表の通りで、男女別に考察すると人数が少なくなってしまうので、あまり明確な結論は出てこない。男児では、いずれの図書の場合もほとんどが「男の子らしく」育てたいとしており、図書の性格による違いは認められない。ただ男児に多く与えられた「ドラえもん」と「ザ・ウルトラマン」を挙げた親に「どちらでもない」(24.0%と13.0%)と答えたものが割合多いのはどう解すべきであろうか。女児では、いずれの図書の場合も「女の子らしく」育てたいとするものが多いが、特に情愛指数の高い3冊はそれが多い。又、女児は「どちらでもない」が男児に比して多いが、中でも「もぐらとじどうしゃ」(46.2%)、「こうもり」(44.4%)、「ドラえもん」(38.9%)などがその傾向が強い。「こうもり」は攻撃指数の高い図書であり、「ドラえもん」は男児に多く与えられる図書であるから、これらの図書は特別女らしく育てたいとは思わない親によって多く与えられることになるのであろう。

7) 図書の性格と子どもの男らしさ、女らしさ

図書が子どもの男らしさ、女らしさの形成に影響する

とすれば、当然図書の性格によってそれは異なるはずである。

与えられた図書の性格と子どもの男らしさ、女らしさとの関連をみた第14表によると、攻撃指数の高い3冊の図書を与えられた子どもたちは、男児の場合、「男の子らしい」子どもが多いとはいえず、女児の場合も「どちらでもない」が多いとは必ずしもいえないが、ただ「こ

うもり」だけは女児の「どちらでもない」が66.7%で「女の子らしい」の22.2%の3倍に達している。次に、情愛指数の高い3冊の図書を与えられた子どもたちをみると、「だいちゃんとうみ」では女児の場合に「女の子らしい」(66.7%)が多く、「どちらでもない」(11.1%)が少ないが、「赤毛のアン」では男児の場合に「男の子らしい」(75.0%)が多く、女児では「女の子らしい」

第13表 図書の性格と子どもの育て方

	図 書 名	性	男の子らしく	女の子らしく	どちらでもない	無 記	計
攻 撃 的	ザ・ウルトラマン	男女	20人 87.0%	0人 0%	3人 13.0%	0人 0%	23人 0
	イソップどうわ	男女	11人 91.7	10人 62.5	3人 18.8	1人 3	12人 16
	こ う も り	男女	7人 87.5	4人 44.4	1人 6.3	0人 1	8人 9
情 愛 的	だいちゃんとうみ	男女	7人 77.8	6人 66.7	0人 11.1	2人 2	9人 9
	赤毛のアン	男女	4人 100	17人 73.9	0人 21.7	0人 1	4人 23
	日本昔話	男女	16人 88.9	17人 65.4	1人 5.6	1人 2	18人 26
そ の 他	ドラえもん	男女	18人 72.0	8人 44.4	6人 24.0	1人 2	25人 17
	かさじぞう	男女	6人 100	6人 60.0	0人 30.0	0人 1	6人 10
	もぐらとじどうしゃ	男女	7人 87.5	7人 53.8	1人 12.5	0人 0	8人 13
	アンデルセンどうわ	男女	7人 100	6人 54.5	0人 18.2	0人 3	7人 11

第14表 図書の性格と男の子らしさ、女の子らしさ

	図 書 名	性	男の子らしい	女の子らしい	どちらでもない	無 記	計
攻 撃 的	ザ・ウルトラマン	男女	14人 60.9	1人 4.3%	5人 21.7	3人 3	23人 0
	イソップどうわ	男女	6人 50.0	6人 37.5	4人 33.3	2人 3	12人 16
	こ う も り	男女	5人 62.5	2人 22.2	3人 37.5	0人 1	8人 9
情 愛 的	だいちゃんとうみ	男女	5人 55.6	6人 66.7	2人 22.2	2人 2	9人 9
	赤毛のアン	男女	3人 75.6	11人 47.8	0人 43.5	1人 2	4人 23
	日本昔話	男女	8人 44.4	12人 46.2	7人 38.9	3人 2	18人 26
そ の 他	ドラえもん	男女	14人 56.0	6人 35.3	9人 36.0	2人 2	25人 17
	かさじぞう	男女	3人 50.0	1人 16.7	10人 58.9	0人 0	6人 10
	もぐらとじどうしゃ	男女	6人 75.0	6人 60.0	2人 33.3	0人 1	8人 13
	アンデルセンどうわ	男女	5人 71.4	5人 45.5	2人 28.6	0人 2	7人 11

(47.8%)と「どちらでもない」(43.5%)が半々となっているし、「日本昔話」では男女児とも「男の子らしい」(44.4%)あるいは「女の子らしい」(46.2%)と「どちらでもない」(男児38.9%、女児46.2%)が半々となっている。

以上のような結果で、予期した結果が若干認められなくもないが、対象数が少ないため、明確な結論には至らなかった。

### Ⅲ テレビ番組の分析

#### 1 対象としてとりあげたテレビ番組

前回の調査に基づいて、幼児がよくみている11のテレビ番組を分析の対象としてとりあげた。その内容は第15表のとおりである。

男児、女児ともに高い視聴率の順は、9位以内に入っているものを対象としたが、男児の2位「帰ってきたウルトラマン」、及び女児の3位「花の子ルンルン」は、分析時点で録画が不可能であったために、除かれている。

11番組の内訳は、アニメーション漫画・劇画が5、スタジオ番組が2、テレビ劇が2、公開番組2、人形劇が各1となっている。

#### 2 分析の単位

番組の1単位放映時間(番組の放映時間と異なる)は、10分から55分(CMを含む)に分かれており、しかも単位毎に完結するものとシリーズものに分かれている。今

回の分析にあたっては、放映時間が合計55分乃至60分となる範囲とした。したがって単位毎にみると、1単位から6単位までとなる。

#### 3 分析結果と考察

##### 1) 番組別内容分析

まず、図書の分析と同様、内容分析の基準(註)によって各番組の内容分析を行った。その際、全番組について3名が独立に分類をしたが、完全に一致したもの25.5%、2名が一致したもの67.3%全く一致しなかったもの7.3%で平均一致率は70.3%であった。このため、全く一致しなかったものを再評定し、すべて2名以上で一致する内容を最終評定とした。

##### (1) 全体の傾向

各番組の内容分析結果及び全体の傾向は、第7図、第

##### (註) 内容分析の基準

- 芸術—美しい、きれいななど、芸術的に高度な表現がどの程度みられるか。
- 情緒—うるおい、思いやり、感性など情緒豊かな表現がどの程度みられるか。
- 知識—生活、科学などこどもに必要な知識、教えるべき知識がどの程度与えられているか。
- 教訓—人生の教え、価値観、道徳、ルールなど教訓となるものがどの程度与えられているか。
- 活動・冒険—動きの多さ、活発さ、闘争性、積極性など活動、冒険の表現どの程度みられるか。

第15表 対象としたテレビ番組

前回調査時の順位と視聴率			番組名	種類	1単位放映時間と 分析単位数	
総合	男児	女児				
位1	29.9%	位1 35.2%	位5 24.3%	ドラえもん	こども主人公 アニメーション漫画	10分(CMを含む)6単位
2	27.3	4 24.6	2 30.1	サザエさん	ホームドラマ アニメーション漫画	10分( )6
3	19.8	6 16.8	6 23.0	ママと遊ぼう/ピンポンパン	視聴者参加 スタジオ番組	30分( )2
5	17.0	9 15.3	8 18.8	まんが日本昔話	昔話シリーズ アニメーション漫画	15分( )4
5	17.0	29 4.0	1 30.5	赤毛のアン	女児主人公 アニメーション漫画	30分( )2
7	16.8	15 6.8	4 27.2	カレー屋ケンちゃん	こども主人公 テレビ劇	30分( )2
8	16.7	6 16.8	9 16.6	8時だよ/全員集合	公演公開番組	55分( )1
9	15.8	6 16.8	12 14.8	ひらけ/ポンキッキ	視聴者参加 スタジオ番組	30分( )2
10	15.0	3 25.5	22 4.0	ザ・ウルトラマン	超人主人公 アニメーション劇画	30分( )2
11	14.8	12 9.6	7 20.4	プリンプリン物語	少女主人公 人形劇	20分 3
15	10.8	5 18.0	24 3.3	仮面ライダー	超人主人公 テレビ劇	30分(CMを含む)2



16表のとおりである。テレビ番組においては、こどもの興味をひく「活動・冒険」の度合いがやや高いものが多く、また「情緒」、「教訓」の度合いも次いで高い傾向にあるが、芸術の度合いは一部の番組を除いて低い傾向がみられた。

番組別にやや特徴的なものをあげると、

- ① 活動・冒険タイプとしては、超人主人公の闘争的番組（「ザ・ウルトラマン」、「仮面ライダー」）アクションの多い公演番組（「8時だよ！全員集合」）があげられる。
- ② 情緒タイプとしては、いずれも家族や学校、近隣の人々との人間的交流を背景とする番組（「ドラえもん」、「サザエさん」、「カレー屋ケンちゃん」）があげられる。
- ③ 芸術・情緒タイプとしては、名作やこれに類する物語のアニメーション番組（「日本昔話」、「赤毛のアン」）があげられる。

各番組についてウエイト得点を算出したところ、第17表のとおりであった。最も得点の高かった「まんが日本

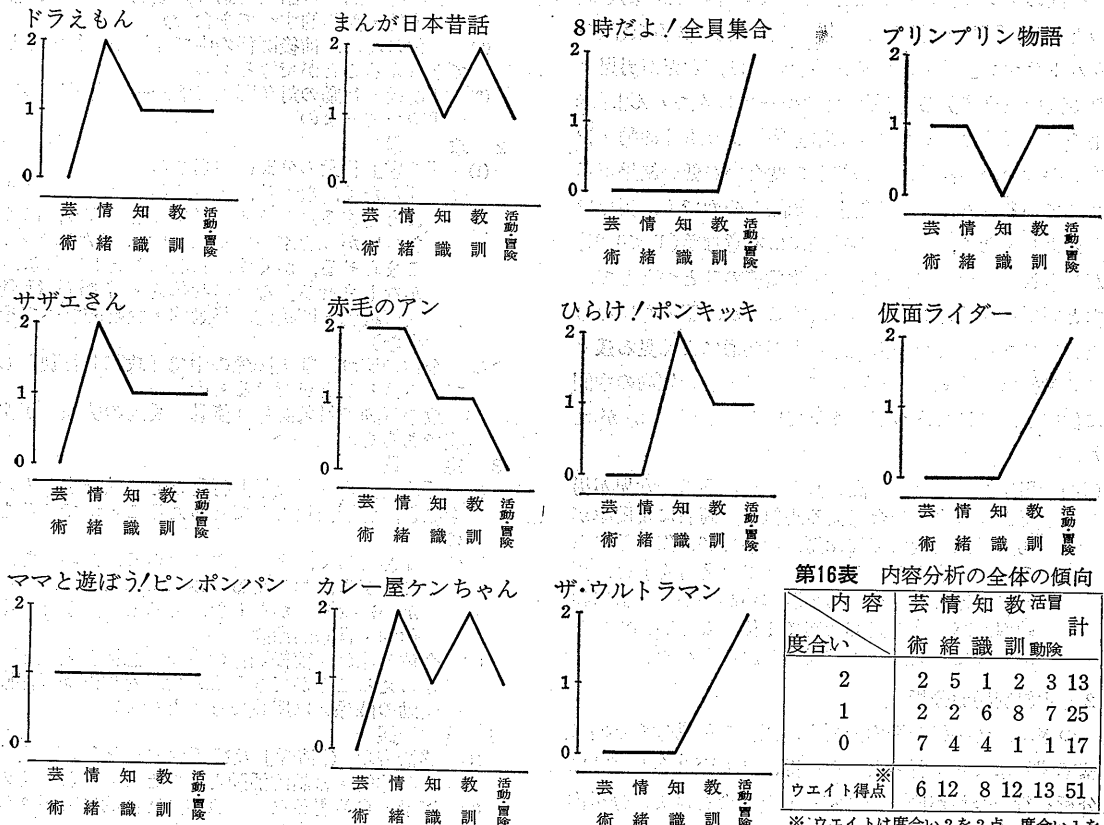
昔話は、他の調査などをみると、親が見せたい番組、好ましい番組の第1位を占めており、最も得点の低かった「8時だよ！全員集合」は、他の調査などでは、親が見せたくない番組、好ましくないと思った番組の第1位を占めている(註)。

しかし、これらの内容分析や評価については、より客観性をもった、厳密な方法をさらに検討していかなければならない。

前回の調査においては、人間形成に良い影響を与えるものとして、テレビは最も低く第5位にあげられているものが多かった。先きに上げた結果からも、幼児がよくみているテレビ番組が、必ずしも内容的にすぐれているわけではなく、幼児の関心を強くひく内容のもの、あるいは児童・青少年、成人を通じて人気のある番組が多く

- (註) ① 福岡教育大学幼稚園教員養成課程幼児心理研究室「幼児におけるテレビ文化の研究（第1年次報告）」  
 ② 青少年育成国民会議「テレビ番組に関する全国調査（第1回）」

第7図 各番組の内容分析結果



第16表 内容分析の全体の傾向

内容 度合い	芸術 情緒 知識 教訓 活冒					計
	術	緒	識	訓	動険	
2	2	5	1	2	3	13
1	2	2	6	8	7	25
0	7	4	4	1	1	17
ウエイト得点	6	12	8	12	13	51

※ウエイトは度合い2を2点、度合い1を1点、度合い0を0点として算出した。

第17表 各番組のウェイト得点

番組名	ウェイト得点
まんが日本昔話	8
カレー屋ケンちゃん	6
赤毛のアン	6
ドラえもん	5
サザエさん	5
ママと遊ぼう!ピンポンパン	4
ひらけ!ポンキッキ	4
プリンプリン物語	4
ザ・ウルトラマン	3
仮面ライダー	3
8時だよ!全員集合	2

含まれているといえる。

(2) 性差

また、前回の調査では、人間形成に与える影響を与えるものとして、本が第2位にあげられていた。内容としては、情緒性が最も重きをおかれ、ついで知識、活動・冒険に重きがおかれていた。また女兒に比較して、男児では活動、冒険に重きをおく割合が高かった。

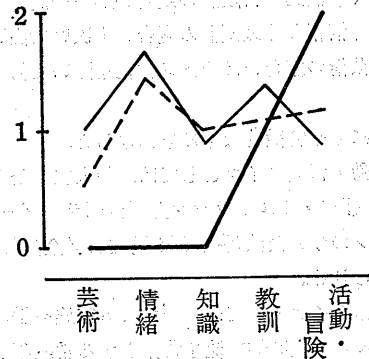
今回のテレビ番組を対象とした内容分析では、第8図のとおり、男児が女兒よりも高い割合で見る2番組(「ザ・ウルトラマン」,「仮面ライダー」)(註)は、女兒が男児よりも高い割合で見る3番組(「カレー屋けんちゃん」,「赤毛のアン」,「プリンプリン物語」)(註)よりも「活動・冒険」の度合いが高く、「情緒」の度合いが低い結果が示されている。また、「芸術」、「知識」の面でも、男児は女兒よりも低く、これらの結果には有意な差(P<0.01)がみられた。テレビ番組も、文化環境のひとつとして、本と同様の性差の傾向がみられることが、明らかになったわけである。また、男児、女兒が共通によく見る残りの6番組は、「知識」を除いて、ほぼ両者の傾向の中間に位置し、多様な内容が含まれていることがうかがえた。

(註) 男児が女兒よりも高い割合で見る番組、女兒が男児よりも高い割合で見る番組は、両者に視聴率が10%以上(最低で10.8%,最高で26.5%)差のあるものを選んだ。ただし、「ドラえもん」は、男児が女兒よりも10.9%視聴率が高いが、ともに視聴率が高い(男児35.2%で1位、女兒24.3%で5位)ので、共通によく見る番組に含めた。

2) 番組別場面分析

つぎに、各番組の場面分析を、図書の行動分析と同じ基準(註)によって行った。その際、2乃至3名が同時に分析を行い全員が同一の評定をした場合を最終の分析内容とした。

第8図 男児、女兒の視聴傾向別内容分析



男児が女兒よりも高い割合で見る番組 (2番組の平均)

女兒が男児よりも高い割合で見る番組 (3番組の平均)

男児、女兒が共通によく見る番組 (6番組の平均)

(註) 場面分析の基準

1 情愛

- (1) 「情愛」行動の分類に該当するもの  
ex だきよせる, かばう, たすける, ささげる, おもいやる, あいする, どうじょうするなどの身体的・言語的行動(直接的・間接的, 能動的・受動的すべてを含む)
- (2) 全体の流れ, 前後関係の中で「情愛」行動としてとらえることができるもの
- (3) 「情愛」行動の対象関係(能動-受動の関係)が明瞭であるもの

2 攻撃

- (1) 「攻撃」行動の分類に該当するもの  
ex 「たたく, ながる, とくくみあう, つかまえようとする, ころす, じゆうをうぼう, にくむ, いかりをぶつける, おどす, ばかにする, こまらせる, かくす, わなにおとし入れる, かなしませる」などの身体的・言語的行動(直接的・間接的, 能動的・受動的すべてを含む)
- (2) 全体の流れ, 前後関係の中で「攻撃」行動としてとらえることができるもの
- (3) 攻撃行動の対象関係(能動-受動の関係)が明瞭であるもの

3 感情

- (1) 「情愛」及び「攻撃」行動として該当するものを除き, 感情表現としてとらえることができるもの  
ex 「おどろく, よろこぶ, わらう, たのしむ, こわがる, おびえる, ふあんにおもう, ふゆかいになる, かなしむ, くるしむ」などの身体的・言語的活動
- (2) 全体の流れ, 前後関係の中で「感情」表現としてとらえることができるもので, 対象関係(能動-受動の関係)は明瞭でなくともよい

4 客観

- (1) 感情表現(「情愛」及び「攻撃」を含む)を除く, 身体的・言語的活動としてとらえられるもの
- (2) 情景, 自然現象など一般的, 客観的に表現されているもの

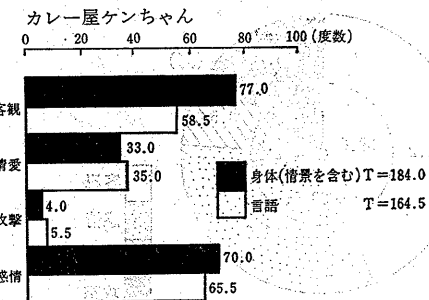
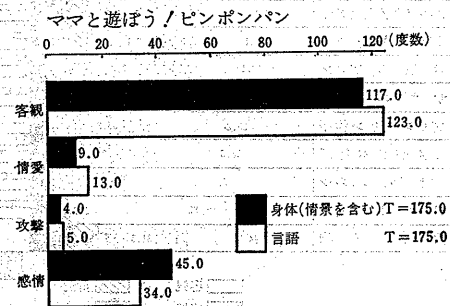
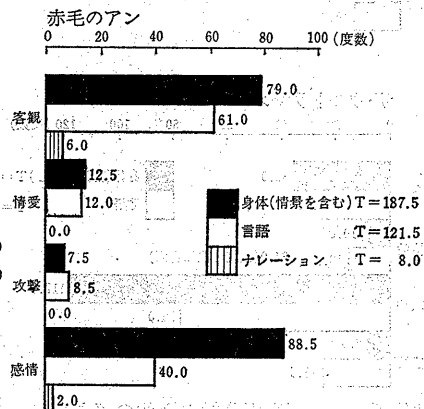
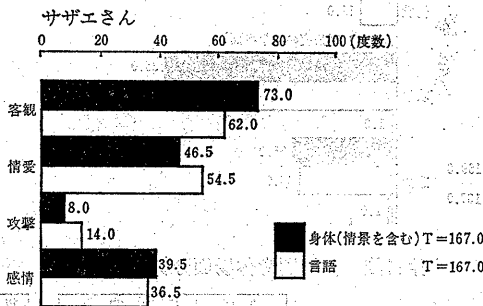
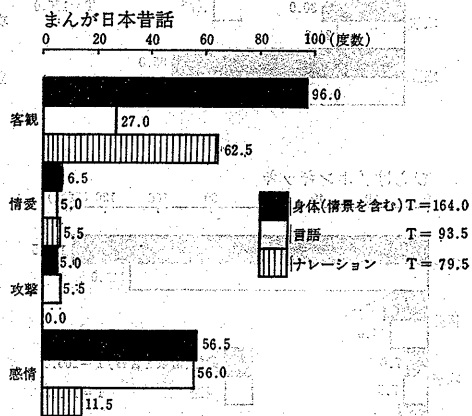
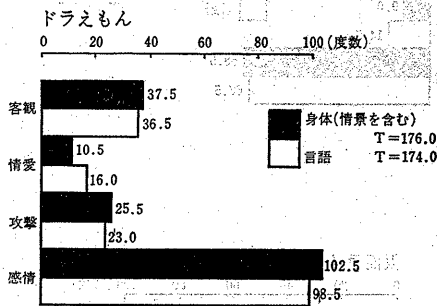
これまでのテレビ番組の分析の方法をみると、暴力場面など特定の場面に関して全時間（100%）中の出現比率をみる方法が多くとられている。しかし、特定の場面に限らずさらに多くのカテゴリーに分類する場合、また身体（情景を含む）のみならず、言語等についても分析を試みる場合には、単純に出現比率のみであらわすことに限界がある。そこで妥当な最低分析時間単位（シーケンス）を検討した結果、15秒を1シーケンスとして分析することとした。分析にあたっては、「1シーケン

スに、「カテゴリー分類」を原則としたが、1シーケンスの中で、カテゴリーのウエイトが等しく、1つのみに分類し難い場合は、とくに2分類（各場ずつのウエイトづけ）とした。

(1) 全体の傾向

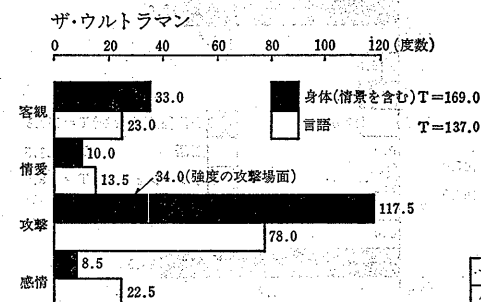
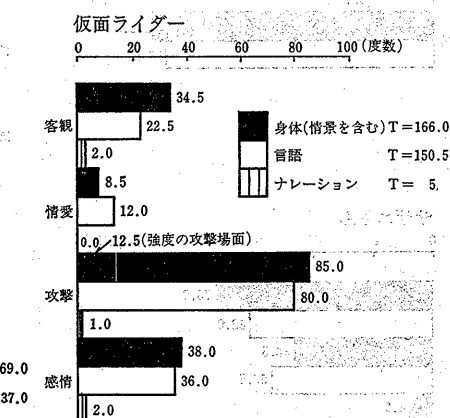
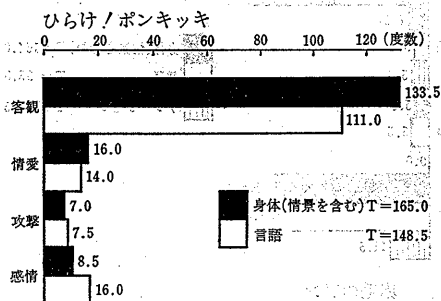
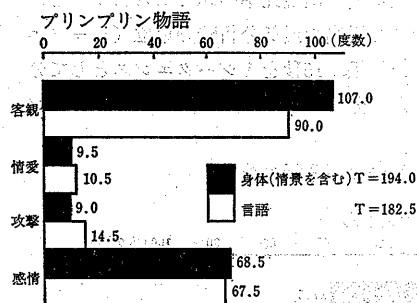
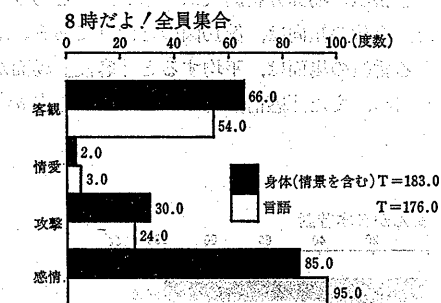
各番組の場面分析結果は、第9図のとおりである。また、全体の傾向は、第10図のとおりである。幼児のよく見る番組の場面は、平均すると「客観」場面が40%前後を占め、また「感情」場面が約40%近くを占めている。

第9図 各番組の場面分析の結果

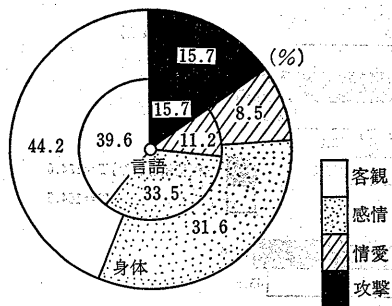


「攻撃」場面は約16%、「情愛」場面は身体(情景を含む)が約9%、言語が約11%となっている。身体、言語場面を比較すると、「情愛」、「感情」場面は、言語にやや多く、「客観」場面は、身体にやや多いが、有意な差はみられなかった。

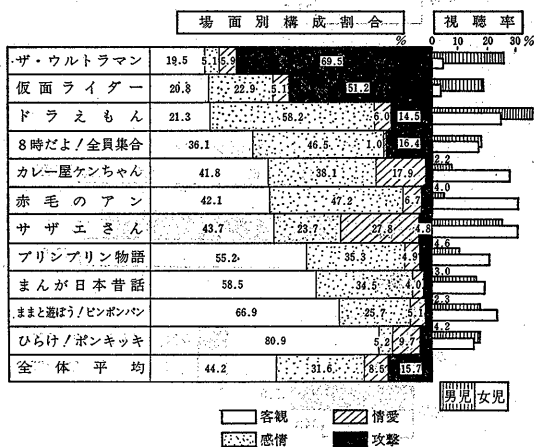
しかし、各番組別にみると、いくつかの特徴がみられる。身体場面を例にとると、第11図にみられるように、「客観」場面の少い順から各番組を配列すると、その順は、ほぼ「攻撃」場面の多い順と一致し、「客観」場面が半数前後を占める番組は、ほぼ、「感情」、「情愛」場



第10図 身体別、言語別場面分析の全体の傾向



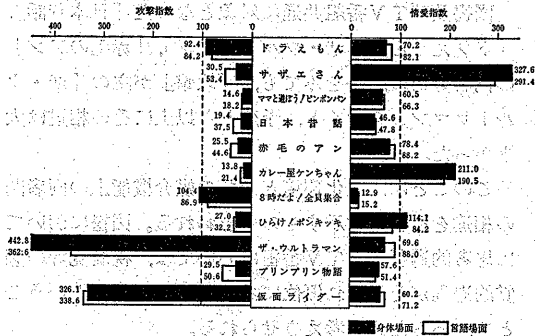
第11図 番組別身体場面分析と視聴率



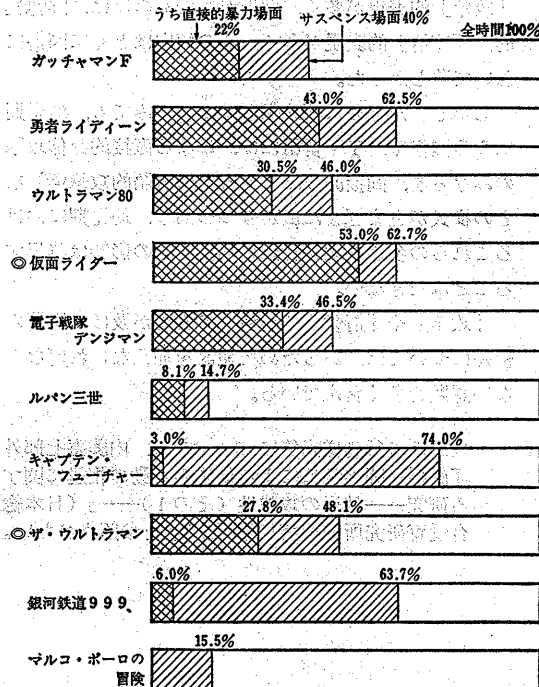
面も半数前後を占めている。これらの関係は有意（ $P < 0.01$ ）であった。

まず、「活動・冒険」タイプとしてみられた、「ザ・ウルトラマン」、「仮面ライダー」、「8時だよ！全員集合」は、

第12図 各番組の身体場面別、言語場面別攻撃指数、情愛指数



第13図 モニター対象番組に描かれている暴力の割合：番組別



- 直接的な暴力場面とは、殺し、自殺、損傷、武器使用、人為的爆発、殴り合い等の登場人物に直接かかわる暴力の場面。
- サスペンス場面には、直接的暴力および、そこへ至るまでの導入過程、また、嵐、溶岩流出等の自然現象による暴力を含む。

FCT「テレビ子ども」（1981）より

◎印は著者が付したのもの

いずれも「攻撃」場面が他の番組よりも多く、第12図のとおり、攻撃指数(註)が100を超え、とくに前2番組は著しく高い。FCTの調査におけるこの2番組の結果は第13図のとおりであるが、本調査と方法も異なり、また分析の対象とした番組の単位が異なっているとはいえ、いずれにしても、比較的高い暴力の割合が示されている。「活動・冒険」の高さは、幼児番組においては、「攻撃」場面の割合の高さと関係しているといえる。

つぎに、「情緒」タイプとしてみられた、「ドラえもん」、「カレー屋ケンちゃん」、「サザエさん」は、いずれも「感情」、「情愛」場面が50%乃至60%を占めている。とくに、「カレー屋ケンちゃん」、「サザエさん」の情愛指数(註)の高さは、人間的交流を背景とする番組としての特徴があらわれているように思われる。芸術・情緒タイプとしてみられた「赤毛のアン」も、この一群に含まれている。

他の4番組は、「まんがが日本昔話」を除いて特徴的なタイプのみられなかったものであるが、いずれも「客観」が半数以上を占めている。幼児向けの視聴者参加番組である「ママと遊ぼう！ピンポンパン」、「ひらけ！ポンキッキ」は、知識面を含んだ非常に「客観」場面の多い番組である。

(註) 攻撃指数は、身体場面での平均(15.7%)及び言語場面での平均(15.7%)をそれぞれ100とした場合の各番組の指数。  
情愛指数は、身体場面での平均(8.5%)及び言語場面での平均(11.2%)をそれぞれ100とした場合の各番組の指数

(2) 性 差

今回のテレビ番組を対象とした場面分析の結果を、男児が女児よりも高い割合で見る2番組、女児が男児よりも高い割合で見る3番組、男児、女児が共通によく見る残りの6番組に分けて検討を加えたところ、第11図及び第14図のとおり、男児のよく見る番組は、「攻撃」場面

第14図 男児、女児の視聴傾向別場面分析

		場面別構成割合				%
		客観	情緒	感情	攻撃	
男児が女児よりも高い割合で見る番組	身体	20.1	13.9	5.5	60.4	3.6
	言語	15.8	20.3	8.9	55.0	
女児が男児よりも高い割合で見る番組	身体	46.5	40.1	9.7	3.6	6.1
	言語	44.7	36.9	12.3	6.1	
男児・女児が共通によく見る番組	身体	50.8	32.7	8.8	7.7	8.5
	言語	44.3	26.0	11.2	8.5	

の割合がきわめて高く、それに比較して女兒のよく見る番組には、「感情」、「客観」場面の割合が高かった。また、男児、女兒が共通によく見る番組は、「客観」場面の割合が非常に高く、次いで「感情」場面であった。女兒のよく見る番組及び男児、女兒が共通によく見る番組の「情愛」場面は、男児がよく見る番組よりは高かった。これらの結果は身体場面、言語場面ともに有意 ( $P < 0.01$ ) であった。

とくに、男児の「攻撃」場面指向、女兒の「感情」場面指向の対比は、内容分析ともあわせて考慮すると、幼児期における男の子らしさ、女の子らしさと関係することが示唆される。また、内容分析でウェイト得点の低かった「ザ・ウルトラマン」、「仮面ライダー」は、いずれも攻撃指数が300を超える番組であったが、これを除く9番組は、「客観」、「感情」及び「情愛」がさまざまに織りなされている。

以上の点は、親のテレビ視聴にかかわる意識及びテレビ制作者の意図と関連させ、また他の一般の番組と比較させ、さらに分析を必要とする事柄である。

#### IV 全体的考察

以上の図書及びTV番組の内容を分析した結果、明らかになった点はつぎのとおりである。

1 日頃幼児に多く読まれたり、見られている図書、TV番組は、ともに「情緒豊かなもの」、「教訓的なもの」、「活動・冒険的なもの」が内容的に多く含まれている。これに対し、「知識を多く与えるもの」、「芸術性豊かなもの」は両者ともに必ずしも多くはなかった。「芸術性豊かなもの」については、評定上も主観的判断の弊をまぬがれることはできないとはいえ、これら「芸術」及び「知識」の内容に関しては、必ずしも幼児が好まないからということよりも、そのような内容を含む図書や番組が決して多くはないことを示しているようにも思われる。

2 つぎに、図表とTV番組の内容分析の結果を比較すると、図書においては、「客観的叙述」の割合の高いものが多く、TV番組においては、「感情」場面の割合の高いものが多かった。また、図書においても、絵による叙述の場合は、文による叙述の場合よりも、「感情」や「攻撃」の叙述が多くみられた。

図書及びTV番組共通に対象となった「日本昔話」、「ドラえもん」、「ザ・ウルトラマン」、「赤毛のアン」の内容分析の結果をみても、「攻撃」が主の「ザ・ウルトラマン」を除くと、予想した以上にその相違は大きかった。

このことは、文化環境としての媒介機能上の両者間の相違をそれぞれ示すものと思われる。図書においては思考的過程が、TV番組においては、視聴覚等の感覚的過程がそれぞれ優位にあるのではないかということ、あらためて考えさせられる。

3 幼児期の文化的環境と性差という点からみていくと、図書及びTV番組ともに、男児の好むものには、「攻撃」的表現が多く、女兒が好むものには、「情愛」的、「感情」的表現が多く、この傾向はとくに図書において著しかった。

しかし、たとえば「攻撃」についてみても、幼児期にみる図書や、TV番組には、単なる直接的身体攻撃のみならず、間接的攻撃、あるいは言語的攻撃(註)などの様式がさまざまに広がりつつあり、幼児期におけるこれらの多様な攻撃行動の間接学習の影響は無視することはできない。

「攻撃」や「情愛」、「感情」の表現が及ぼす影響の性差については、あらためて検討を加えなければならぬ課題を多く含んでいる。

(註) 攻撃性の行動様式等については、内藤寿七郎外「直接—間接学習による幼児の行動の相違に関する研究——幼児の攻撃性(その1)——」(日本総合愛育研究所紀要第13集, 1977)を参照されたい。